

残雪の越後駒ヶ岳（個人山行）

（報告）JF

◎山行日：2023年5月4日（水）～5日（木）

◎メンバー：JF（L）、K



越後駒ヶ岳

ゴールデンウィークが来ました。今年の春は、関東で早くも25℃越えの日が連続するなど、体感的にも例年以上の暑さで、山の雪解けが早そうでした。やはり雪山が名残り惜しい。ということで、Kさんと相談して、越後駒ヶ岳に狙いを定めました。二人ともまだ登っていない100名山でもあります。

前日に予約した南魚沼の民宿「ノースポイント」に素泊まり。翌朝、5時出発で関越道と奥只見シルバーラインを走り、银山平「石抱橋」の近くの路肩に車を止めました。辺りは雪景色、雲一つない快晴、気分が上がります。6:40に歩き始めてすぐ、10頭ほどのサルの群れが歩いていました。毛がふさふさでかわいいです。



こちらを見つめるサル

最初は北ノ又川に沿って平坦な河原を進みます。どこかで「道行山」へ上がるルートに入りたいのですが、案内表示的なものがまったくありません。最近登られているルートを事前にインターネット「山レコ」でチェックしていましたが、私の手元の地図にはその道は書かれていません。少し不安を感じ、やはり地図に書かれている“安心ルート”で行ったほうがよいか？と迷ったのが失敗でした。見当をつけて北斜面を登っていけば登山道に出ると思ったのですが、ひどい藪で行き詰まりダメでした。



スタート後しばらく北ノ又川の河原を歩く

再び川岸まで降りるしかなく、一度通過した場所に戻ってしまいました。時刻は 8:30、2 時間近くロスしてしまっただと、二人で少し凹む。ちょうど下山してきた人に道を聞くと「何度も道に迷った、下りもルートが分かりにくい。いろいろあった。よく地図を見ていくように。」とアドバイス。この人もなんか大変だったみたいですが、うーん、結局、自分で頑張れということか……。地図にないルートを行くしかない、と決意を新たに再出発しました。

川沿いに 30 分ほど進んだ地点で、初めて木の枝にそれらしいピンクテープが現れました。ここが上り口か？信じてよいかどうか……。地図を睨んで、どうやら「道行山」に向かっていきそうに思われ、そのまま谷筋を登って行きました。巨大なデブリの雪崩跡もあります。谷は雪がだまっていて邪魔な樹木がなく、ありがたいですが、どんどんきつくなっていく傾斜に苦しめられます。しかし、とにかくまずは「道行山」まで上がることが第一。そうすれば正しい道に合流できます。

ときどきスマホで方向が合っていることを確認しながら、ついに「道行山」に到着。越後駒ヶ岳へとつながる尾根上のルートが見えています。歩いている人も見えます。あーよかった、安心しました。ひとつ達成感を味わいながら、大きな荒沢岳を眺めます（あとでわかりましたが、この谷ルートはやはり正しいルートではありませんでした）。再スタートから 3 時間が経過し 11:20 になっていました。改めて地図で所要時間を計算すると、「駒の小屋」まであと 3 時間 50 分。3 時半頃着の見込みです。K さんが「天候は安定しているし、日も長いし、まあ大丈夫かな」と冷静なコメント。ここから尾根歩きが気持ち良い。前方に越後駒ヶ岳、左に荒沢岳。残雪のまだら模様の山の景色が素晴らしい。出会う人に話を聞くと、みなさん日帰りの方ばかり。バックカントリースキーで滑ろうという男女カップルもいてカッコいい。それにしても急登が長い。「前駒」の手前で「ここが一番苦しいところ。頑張って」と下りの人に励まされます。

そしてやっと「駒の小屋」に到着。15:00 でした。すぐ玄関前の水汲み場は、ジャバジャバと水が噴き出しっぱなしで豊富な水量に驚きでした。

少しの休憩後に、いよいよ山頂を目指します。広い雪原を登り切り 2003m の山頂に到着、そこには猿田彦の大神様がいらっしゃいました。今後の人生を幸運に導いてくれる神様で、安全登山や交通安全の神様でもあるらしいです。ご加護がありますように。



巨大なブロック雪崩の跡



駒の小屋

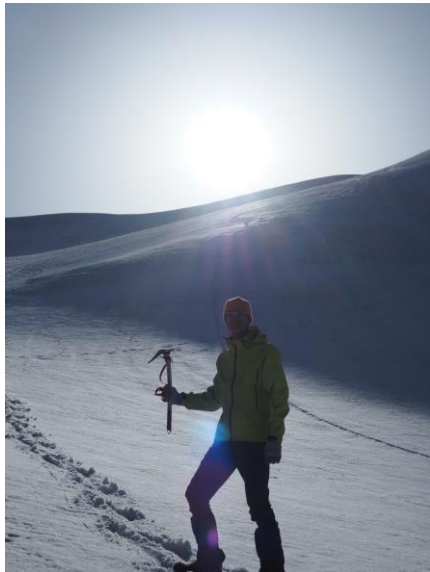


越後駒ヶ岳の山頂

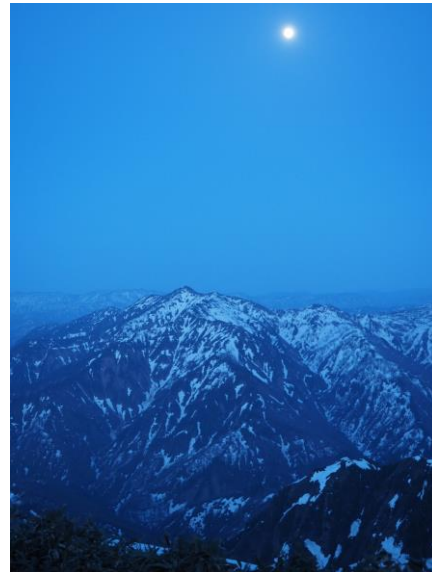


猿田彦の大神様

さて小屋に戻って、外のベンチで簡単な夕食と、缶ビールで乾杯。夕暮れまでのひとときを、贅沢な景色を見ながら過ごしました。小屋には先客の60歳くらいの男性が一人いて、話を聞くと、十字峡から中ノ岳を越えて縦走してきたそうです。今までに何度も残雪期のこの付近の山を登っているということで、魅力的なルートをいくつも紹介していただき、チャレンジしてみたい気持ちが膨らみました。小屋は清潔で快適、その男性と我々が1階と2階に分かれて、ゆったりと過ごせました。

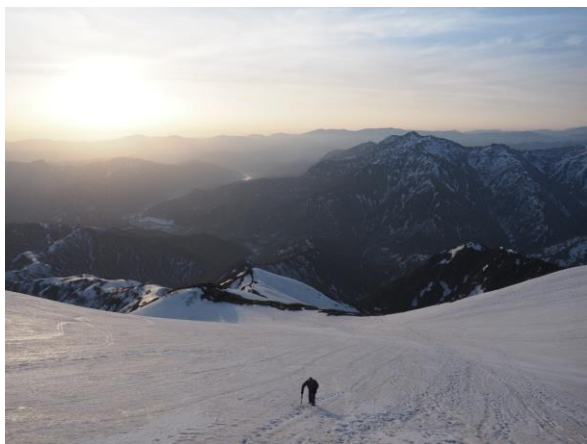


陰影を映す山頂直下の斜面



月夜に青白く浮かぶ荒沢岳

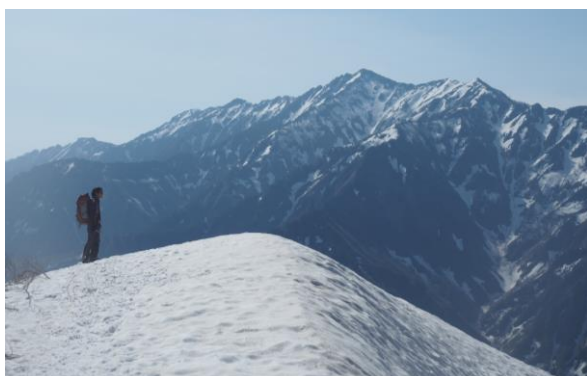
翌朝は日の出時刻に合わせて目覚め、再び山頂へ向かいました。朝日に照らされる山々の景色に浸る幸せ、やはり山中泊は良いです。小屋で朝食後に下山します。昨日苦しかった登り坂も今日は走るように下り、また道行山からは尾根の一般ルートで安全に下りることができました。ルート迷い、長い急登などタフでしたが、2日間天候に恵まれ、残雪の越後の山の素晴らしい景色を堪能しました。



朝日に照らされて登るKさん



プラスチック製ソリで尻滑



荒沢岳とKさん

《コースタイム》

1日目：石抱橋 6:40～道行山 11:20～駒の小屋 15:00～越後駒ヶ岳山頂 15:30～駒の小屋 16:00

2日目：駒の小屋 5:00～越後駒ヶ岳山頂 5:20～駒の小屋 5:45 下山開始 7:10～道行山 9:00～石抱橋 11:30